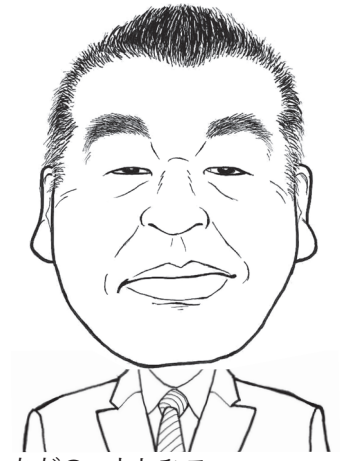


高齢者の憩いの場・集いの場 づくりについて



ただの としひこ
只野 敏彦 議員

町長 プライバシーを確保した場所づくりを検討し、麻雀教室・カードゲーム教室などについても今後着手したい

問

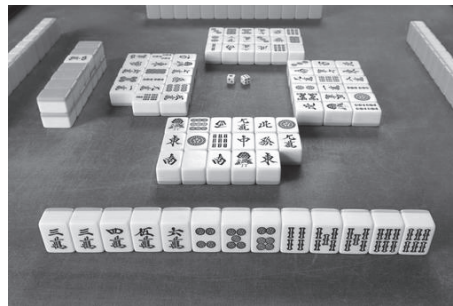
今夏、猛暑でクーラーのない家庭は大変だったと思うが、クーラーのある集まれる場所があると、熱中症対策にもなり、また、冬期間には物価高騰の中で暖房費の節約にもなる。

については、公共施設を開放し、高齢者の集えるスペースをつくってはどうか。

また、高齢者の方々は認知症を心配しており、仲の良い友人と会話することによって認知症の予防にもつながるのではないかと思われる。認知症の予防を目的として、例えば麻雀教室やカードゲーム教室などを開催してはどうか。

町長

ハーモニーホール、中央公民館大集会室、老人福祉センターのいずれかでパーティションで区切ってプライバシーを確保



した場所づくりを前向きに検討していく。

また、麻雀教室、カードゲーム教室については、来年度をめどに事業を着手していきたい。

ふるさと納税の進捗状況について

町長 視察した町を参考に、多くの寄附が得られるよう努力していく

問

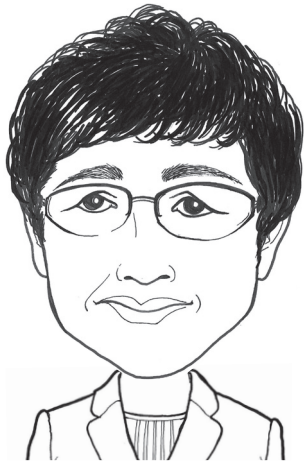
10月からふるさと納税のルールが一部変更、改正されることが決まったが、今現在どのような状況なのか。

また、企画課において別海町や白糠町を調査したとの話も聞いているが、両町の良い点をどのように清水町に活かそうと考えているか何う。

町長

本年8月末までの寄付額が3767万9千円となり、同年同時期の92%となっている。9月では前年比を超えている。別海町や白糠町の良い点は宣伝活動、アフターフォロー、迅速な業務運営、物流の拠点づくりなどがあげられる。両町を参考に多くの寄附が得られるよう、努力していく。

また、町内食肉加工場の商品も返礼品になるため、当初予算額を上回る寄付額を目指していく。



なかがわ つるこ

中河つる子 議員

高齢者が住み慣れた地域で最期まで安心して暮らしていける町にするには

町長

引き続き、高齢者が安心して暮らせる町づくりに努める

問

「人口減少、少子高齢化が進行する中、町民誰もが暮らしやすいと感じることができ、豊かな生活基盤整備を進めるとともに、長期的視点で居住機能や公共交通機関などを小さくても質の高いサービスを提供し、町民の満足度が高まる町を作る。」は第6期総合計画の「施策の大纲5」「快適で安らぎを感じられる住みよいまち」に出てくる一つだが、そこを実現するためのまちづくりについて次の3点を問う。

(1) 高齢者が運転免許証を返納するには、それに代わる移動手段が必要だが、それが不十分なために返納をためらう高齢者は多い。足の確保の充実について町の考えを伺う。

(2) 買い物弱者への支援としての移動販売車をもっと多くの地域へ巡回させ、買い物に困難な人

を支援すべきと思うが、町の考えを伺う。

(3) 高齢者が一人で住むことに不安を感じるようになったとき、安心して住むことのできるケアハウスが設置され、入居できることが安心につながるかと考えられる。ケアハウスの設置についてどう考えているか町の考えを伺う。

町長

(1) 高齢者の移動手段

として、現在、コミュニティバスや清水帯広線バス及び買い物バスの運行、介護保険法に基づく要支援、要介護の認定を受けた方、運転免許の自主返納、失効した方へのタクシーの利用助成を実施している。令和4年度の実績では、買い物銀行バスの利用者が増加して



移動販売車 カケル君

いる。今後も高齢者の移動手段の充実努める。

(2) 移動販売車については、コープさっぽろの協力をいただきながら、令和4年6月より、週2回、東地域集会所と西地域集会所において、それぞれの30分程度の販売をしている。ただ販売箇所が2箇所であるため、特に移動が困難な冬において利用が減少する実態がある。今後も関係機関と情報共有しながら、継続的に協議を進める。

(3) ケアハウスは一般型と介護型の二種類に区分され、一般型は介護認定を受けなくても入居できる施設となっている。従って高齢者が日常生活に不安を感じるようになり、介護サービスを要する手前の段階でも利用できる施設となっている。単身高齢者が増加傾向にある中、施設整備のニーズは高まっていると認識している。